
謎の音

長谷川ちず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

謎の音

【著者名】

長谷川ちず

【ZPDF】

N8022Y

【あらすじ】

散歩をしていた男は、妙な音を耳にする。気になった男は音の正体を探ろうとする。

男は公園の池のほとりを散歩していた。

時刻はまだ早く、人影は無い。

「早朝の散歩はいいものだ。空気が冷たくて気持ちいいし、何より人の出す喧騒が無いのがいい」

鳥のさえずりと、木々の葉ざれだけが朝の空気を震わせる。それらを楽しみながらしばらく歩いていると、ふと気がつく」とがあった。

「何か聞こえる?」

蚊の羽音のような、モーターが回るような、長く伸びた音だ。それは時間とともに大きくなつていった。

「いつたい何の音だろ?」

周囲を見ても何も無い。

やがて、音は唐突に途絶えた。

気になつた男は、音が消えた方に見当をつけ、そちらに向かって歩いた。

「音はどうやら、この茂みの向こうで消えたようだが」

男は茂みを搔き分け、足を踏み出す。

すると、浮遊感が男を包んだ。

茂みの向こうにあつたのは穴だつた。

それも異常に深い。

男はどこまでも落ちていつた。

「うわあーっ!」

なすすべなく、ただ叫び続ける。

どれだけ落ちたかわからなくなつた頃、落ちて いく先に光が見えた。

男は光に飛び込む。 そして男が行き着いたのは、公園の上空だつた。

尚も叫び、落ち続ける男。

地面に叩きつけられて死んでしまう。

男はそう思ったが、すぐにその考えを改めることになった。

真下に底の見えない穴が口を開けていたからだ。

(後書き)

はい、長谷川です。

今回は軽ホラーな作品です。

でも怖くないです。

そんなところです。

では次回作でお会いしましょう。

届け、電波。

みゅーーーん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8022y/>

謎の音

2011年11月23日21時58分発行